

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月13日
【四半期会計期間】	第32期第2四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）
【会社名】	ウィルソン・ラーニング ワールドワイド株式会社
【英訳名】	WILSON LEARNING WORLDWIDE INC
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長CEO 森 捷三
【本店の所在の場所】	東京都港区六本木一丁目10番6号
【電話番号】	03(6381)0234
【事務連絡者氏名】	執行役員グローバルコーポレート本部 本部長 梶本 知大
【最寄りの連絡場所】	東京都港区六本木一丁目10番6号
【電話番号】	03(6381)0234
【事務連絡者氏名】	執行役員グローバルコーポレート本部 本部長 梶本 知大
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第31期 第2四半期 連結累計期間	第32期 第2四半期 連結累計期間	第31期
会計期間	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 4月1日 至平成24年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日
売上高(千円)	1,285,629	1,363,541	2,912,570
経常利益又は経常損失() (千円)	68,857	57,104	82,375
四半期(当期)純利益又は四半期純損失 () (千円)	83,954	55,068	85,396
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	83,817	32,842	95,514
純資産額(千円)	1,009,451	1,216,983	1,188,782
総資産額(千円)	1,892,762	1,996,689	2,184,783
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は1株当たり四半期純損失金額() (円)	17.51	11.49	17.82
潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	52.4	60.5	53.6
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	5,572	15,046	376,144
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	21,436	13,696	10,747
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	47,170	27,755	75,343
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	457,935	751,607	799,663

回次	第31期 第2四半期 連結会計期間	第32期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日	自平成24年 7月1日 至平成24年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額(円)	2.45	10.69

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第31期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額が計上されているため記載しておりません。第31期及び第32期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり当期及び四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

(1) 継続企業の前提に関する重要事象等について

当社グループは、前々連結会計年度まで営業損失を計上しております。前連結会計年度、当第2四半期連結累計期間は営業利益を計上しておりますが、当社は依然、営業損失を計上していることから、継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる状況が存在しております。

当該事象又は状況を解消するための対応策については、「3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析（5）継続企業の前提に関する重要事象等について」に記載のとおりであります。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績

業績の概要

当第2四半期連結累計期間は、欧米をはじめ海外事業は順調に推移、日本国内事業は経営の合理化効果が現れ始めた段階にあります。

弊社ビジネスは下半期中心という事業形態にありますが、当第2四半期連結累計期間は売上増（対前年同期比6.1%）に加え、例年の営業損失の状態から脱し、営業利益を確保することが出来ました。円高、欧州経済危機等困難な経済環境下にあります。ビジネスのグローバル化への対応は適切に行われています。

この結果、当第2四半期連結累計期間における連結業績は、売上高13億6千3百万円（対前年同期比6.1%増）、営業利益7千2百万円（前第2四半期連結累計期間は3千2百万円の営業損失）、経常利益5千7百万円（前第2四半期連結累計期間は6千8百万円の経常損失）となっております。また四半期純利益は5千5百万円（前第2四半期連結累計期間は8千3百万円の四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(イ) 国内

経営合理化効果に加え、事業を3事業（HRD-Human Resource Development, DA-Data Analytics, ICT-Information Communication Technology）に分け国内市場に展開しています。人財開発テクノロジーを中心に顧客のグローバル対応へのサポート、データ解析、インターネットの活用等、経費削減等と合わせ効果も現れ、営業損失の大幅改善をみる事ができました。

この結果、売上高6億4百万円（対前年同期比1.9%増）、営業損失3千万円（対前年同期比74.3%減）となりました。

(ロ) 北米

IT業界、サービス業界から大口ライセンスの契約が獲得でき、新規顧客からの新規案件も増え売上は堅調に推移しました。また、経費削減にも努め、営業利益も増益となりました。

この結果、売上高6億5千5百万円（対前年同期比11.7%増）、営業利益5千万円（対前年同期比20.0%増）となりました。

(ハ) 欧州

製菓業界を中心にグローバル案件が増加し、イギリスをはじめフランスが牽引し、増収、増益となりました。

この結果、売上高1億8千8百万円（対前年同期比16.9%増）、営業利益1千6百万円（対前年同期比27.7%増）となりました。

(二) 中国

欧米グローバル企業からの継続的な研修の受注、実施に加え、新規顧客も増加し、増収、増益となりました。この結果、売上高1億6百万円（対前年同期比26.8%増）、営業利益2千6百万円（対前年同期比43.7%増）となりました。

(ホ) アジア・パシフィック

オーストラリアは堅調に推移し、インドがやや失速しましたが、アジア地区の代理店からの収入は増加しました。

この結果、売上高7千7百万円（対前年同期比1.7%減）、営業利益7百万円（対前年同期比43.3%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、収入として売上債権の減少、税金等調整前四半期純利益の計上、減価償却費の計上がありました。支出として前受金の減少、仕入債務の減少、賞与引当金の減少があり、前連結会計年度末に比べ4千8百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末には、7億5千1百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果減少した資金は、1千5百万円（対前年同期比170.0%増）となりました。この主な理由は、税金等調整前四半期純利益6千1百万円の計上、減価償却費2千5百万円の計上、収入として売上債権の減少7千6百万円がありました。支出として前受金の減少7千5百万円、仕入債務の減少4千9百万円等があり、支出が収入を超過したことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果増加した資金は、1千3百万円（対前年同期比36.1%減）となりました。この主な理由は、収入として定期預金の払戻による収入1千5百万円、投資事業組合分配金による収入6百万円等がありました。支出として有形固定資産の取得による支出5百万円、定期預金の預入による支出3百万円等があったことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果減少した資金は、2千7百万円（対前年同期比41.2%減）となりました。この主な理由は、長期借入金の返済による支出1千9百万円等があり、支出が収入を超過したことによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の金額は37,313千円となっております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 継続企業の前提に関する重要事象等について

当社グループは、前々連結会計年度に3億8千9百万円の営業損失を計上しております。これは、平成20年下半期から顕著となった経済状況悪化の影響の為、売上高が減少したこと及びCC事業の営業損失が多額に発生していたことが大きく影響しております。前連結会計年度は1億6百万円、当第2四半期連結累計期間は7千2百万円の営業利益を計上しておりますが、当社は依然、当第2四半期累計期間において2千1百万円の営業損失となり、継続して営業損失を計上していることから、継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる状況が存在しております。

当社は、下記の経営改善策を実施することで収益構造を改善し、当該事象の解消に向けて取り組んでおります。

- ・内製化による外注費の削減
- ・国内HRD事業において、営業組織とソリューション組織の連携を更に強化することによる大口顧客への営業展開
- ・資金繰安定のためCC事業譲渡後の新中期計画を策定し、取引金融機関の理解を得ております。
- ・経費削減の更なる実施。

今後は、経営改善策を実行することで、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,230,720
計	17,230,720

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,793,680	4,793,680	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	4,793,680	4,793,680	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	-	4,793,680	-	670,368	-	505,122

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
森 捷三	東京都千代田区	906	18.90
サンウッド株式会社	兵庫県神戸市東灘区西岡本2丁目7-2-1121	750	15.66
大阪証券金融株式会社	大阪府大阪市中央区北浜2丁目4-6	245	5.11
株式会社ジャフコ	東京都千代田区大手町1丁目5-1	200	4.19
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6 日本生命証券管理部内	179	3.73
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	86	1.79
SMB Cベンチャーキャピタル株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目13-12	65	1.35
株式会社ベネッセホールディングス	岡山県岡山市北区南方3丁目7-17	56	1.17
花川 洋樹	兵庫県加古川市平岡町	52	1.08
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町1丁目4	48	1.01
計	-	2,590	54.03

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,790,100	47,901	-
単元未満株式	普通株式 3,280	-	-
発行済株式総数	4,793,680	-	-
総株主の議決権	-	47,901	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、200株(議決権の数2個)含まれております。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
ウィルソン・ラーニング ワールドワイド株式会社	東京都港区六本木一丁 目10 - 6	300	-	300	0.00
計	-	300	-	300	0.00

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	874,857	811,874
受取手形及び売掛金	548,776	453,492
たな卸資産	29,206	33,766
その他	41,808	40,252
貸倒引当金	26,953	23,951
流動資産合計	1,467,694	1,315,433
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	149,799	142,285
工具、器具及び備品(純額)	22,070	22,299
土地	60,725	60,725
リース資産(純額)	19,475	19,959
有形固定資産合計	252,070	245,268
無形固定資産		
ソフトウェア	11,447	5,992
リース資産	23,119	18,047
その他	858	785
無形固定資産合計	35,424	24,824
投資その他の資産		
投資有価証券	200,449	194,112
敷金及び保証金	104,052	100,446
長期前払費用	103,270	101,021
その他	28,624	22,384
貸倒引当金	6,800	6,800
投資その他の資産合計	429,595	411,163
固定資産合計	717,089	681,255
資産合計	2,184,783	1,996,689

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	153,142	99,630
短期借入金	181,000	181,000
1年内返済予定の長期借入金	32,800	13,600
未払金	11,298	10,099
未払消費税等	13,083	9,226
リース債務	16,847	17,724
未払法人税等	8,948	6,581
賞与引当金	61,801	35,427
役員賞与引当金	7,486	4,298
繰延税金負債	600	-
未払費用	157,848	144,338
前受金	184,392	101,360
その他	23,314	21,802
流動負債合計	852,559	645,085
固定負債		
リース債務	30,119	24,557
資産除去債務	47,694	47,624
繰延税金負債	50,650	49,306
退職給付引当金	4,398	4,420
その他	10,581	8,714
固定負債合計	143,442	134,621
負債合計	996,001	779,706
純資産の部		
株主資本		
資本金	670,368	670,368
資本剰余金	505,122	505,122
利益剰余金	147,486	92,418
自己株式	136	157
株主資本合計	1,027,868	1,082,915
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,592	2,131
為替換算調整勘定	147,118	127,348
その他の包括利益累計額合計	143,526	125,217
新株予約権	4,620	-
少数株主持分	12,768	8,851
純資産合計	1,188,782	1,216,983
負債純資産合計	2,184,783	1,996,689

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	1,285,629	1,363,541
売上原価	437,265	447,391
売上総利益	848,364	916,150
販売費及び一般管理費	¹ 880,368	¹ 843,967
営業利益又は営業損失()	32,004	72,183
営業外収益		
受取利息	707	861
受取手数料	6,000	6,000
受取配当金	1,000	1,000
賃貸料収入	431	454
持分法による投資利益	3,222	0
雑収入	1,889	2,737
営業外収益合計	13,249	11,052
営業外費用		
支払利息	2,947	2,174
為替差損	30,446	17,191
減価償却費	9,626	3,660
投資事業組合運用損	2,962	1,556
賃貸収入原価	431	454
雑損失	3,690	1,096
営業外費用合計	50,102	26,131
経常利益又は経常損失()	68,857	57,104
特別利益		
新株予約権戻入益	-	4,620
特別利益合計	-	4,620
特別損失		
減損損失	² 810	-
関係会社株式売却損	13,659	-
特別損失合計	14,469	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	83,326	61,724
法人税、住民税及び事業税	12,078	12,522
法人税等還付税額	1,738	-
法人税等調整額	8,308	1,949
法人税等合計	2,032	10,573
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	85,358	51,151
少数株主損失()	1,404	3,917
四半期純利益又は四半期純損失()	83,954	55,068

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	85,358	51,151
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,080	1,461
為替換算調整勘定	14,437	18,465
持分法適用会社に対する持分相当額	18,058	1,305
その他の包括利益合計	1,541	18,309
四半期包括利益	83,817	32,842
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	82,413	36,759
少数株主に係る四半期包括利益	1,404	3,917

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	83,326	61,724
減価償却費	32,792	25,409
減損損失	810	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	3,671	2,032
役員賞与引当金の増減額(は減少)	6,981	2,822
賞与引当金の増減額(は減少)	12,206	23,940
受取利息及び受取配当金	1,707	1,861
支払利息	2,947	2,174
持分法による投資損益(は益)	3,222	0
投資事業組合運用損益(は益)	2,962	1,556
関係会社株式売却損益(は益)	13,659	-
新株予約権戻入益	-	4,620
売上債権の増減額(は増加)	40,912	76,297
たな卸資産の増減額(は増加)	10,507	5,518
その他の資産の増減額(は増加)	50,389	5,387
仕入債務の増減額(は減少)	19,020	49,152
前受金の増減額(は減少)	21,218	75,714
未払金の増減額(は減少)	6,870	437
その他の負債の増減額(は減少)	12,839	15,430
その他	867	5,718
小計	2,145	3,261
利息及び配当金の受取額	1,518	1,788
利息の支払額	2,484	1,781
法人税等の支払額	7,068	12,002
法人税等の還付額	317	210
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,572	15,046
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	10,270	3,700
定期預金の払戻による収入	6,320	15,180
投資事業組合分配金による収入	3,100	6,300
有形固定資産の取得による支出	5,991	5,800
ソフトウェアの取得による支出	2,740	39
関係会社株式の売却による収入	15,850	-
敷金及び保証金の差入による支出	724	2
敷金及び保証金の回収による収入	15,741	3,141
貸付けによる支出	800	800
貸付金の回収による収入	950	897
資産除去債務の履行による支出	-	1,481
投資活動によるキャッシュ・フロー	21,436	13,696

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,850	-
長期借入金の返済による支出	36,530	19,200
リース債務の返済による支出	8,790	8,535
自己株式の取得による支出	-	20
財務活動によるキャッシュ・フロー	47,170	27,755
現金及び現金同等物に係る換算差額	10,279	18,926
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	21,027	48,031
現金及び現金同等物の期首残高	478,962	799,638
現金及び現金同等物の四半期末残高	457,935	751,607

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
研修材料	7,392千円	7,646千円
仕掛品	19,503	24,186
貯蔵品	2,311	1,934

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目と金額は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
給与手当	361,139千円	377,625千円
賞与引当金繰入額	36,972	25,971
役員賞与引当金繰入額	6,981	4,297
貸倒引当金繰入額	1,814	1,998

2 減損損失

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

当第2四半期連結累計期間において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額(千円)
ウィルソン・ラーニング ワールドワイド(株)	除却予定資産(注)	建物及び構築物	735
		工具、器具及び備品	74

当社グループは事業用資産については管理会計上の区分を基本としてグルーピングしております。

(注) 平成24年3月に名古屋支店を移転することに伴い、移転後の利用見込がなくなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減少し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

なお、回収可能価額は使用価値により算定しております。使用価値は、移転までの減価償却費相当額として算定しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	526,820千円	811,874千円
預入期間が3か月を超える定期預金及び担保預金	68,885	60,267
現金及び現金同等物	457,935	751,607

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	国内	北米	欧州	中国	アジア・パシフィック	合計
売上高						
外部顧客への売上高	505,514	493,808	152,424	69,245	64,638	1,285,629
セグメント間の内部売上高又は振替高	87,425	92,532	8,945	15,036	14,341	218,279
計	592,939	586,340	161,369	84,281	78,979	1,503,908
セグメント利益又は損失()	118,096	41,976	12,696	18,422	13,832	31,170

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	31,170
セグメント間取引消去	834
四半期連結損益計算書の営業損失()	32,004

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「国内」において、平成24年3月に名古屋支店を移転し移転後の利用見込がなくなったことに伴い、減損損失が発生しました。なお、当該減損損失の計上額は当第2四半期連結累計期間においては810千円です。

当第2四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	国内	北米	欧州	中国	アジア・パシフィック	合計
売上高						
外部顧客への売上高	508,959	541,827	148,104	98,876	65,775	1,363,541
セグメント間の内部売上高又は振替高	95,055	113,369	40,571	7,967	11,867	268,829
計	604,014	655,196	188,675	106,843	77,642	1,632,370
セグメント利益又は損失（ ）	30,390	50,391	16,213	26,479	7,836	70,529

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	70,529
セグメント間取引消去	1,654
四半期連結損益計算書の営業利益	72,183

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 （自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自平成24年4月1日 至平成24年9月30日）
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額（ ）	17円51銭	11円49銭
（算定上の基礎）		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額（ ） （千円）	83,954	55,068
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額（ ）（千円）	83,954	55,068
普通株式の期中平均株式数（株）	4,793,450	4,793,380

（注）前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額が計上されているため記載しておりません。当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在していないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月13日

ウィルソン・ラーニング ワールドワイド株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 浅野 俊治 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 栗原 幸夫 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているウィルソン・ラーニング ワールドワイド株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ウィルソン・ラーニング ワールドワイド株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。